

紅葉

普賢岳や妙見岳の山腹は、10月中旬頃から鮮やかに紅葉し始めます。見頃は11月初めまでで、その後、紅葉は徐々に下へ移って行きます。この地域の紅葉は南西日本の代表的なものとして国の天然記念物（「普賢岳紅葉樹林」）に指定され、紅葉植物は120種を数えます。

美しい紅葉が見られる条件としては、昼夜の温度差が大きいこと、葉が風雨で傷んでいないこと、紫外線を十分受けることなのですが、紅葉の色は紅・黄さまざまです。同じ樹でも枝の位置や時期によって異なります。



コミネカエデ コハチワカエデ ウリカエデ ウリハダカエデ

霧氷

普賢岳・妙見岳一帯では冬、霧氷を見ることができま。1、2月を中心に11月下旬から3月中旬までが霧氷の時期ですが、この間毎日見られるものではなく、低気圧や寒冷前線が通過後冬型の天気となり、気温が0℃～-10℃位という気象条件の日に限られます。

霧氷は、山にかかった雲や霧の過冷却の霧粒が風で木の枝にぶつかり、凍り付くものなので枝の風上側（主に北西側）に刃のように成長します。さらにこの霧氷に陽の光が当たると一面にキラキラと輝き夢のような景観が広がります。

霧氷を手軽に楽しむにはロープウェイで妙見岳に登り国見岳への自然歩道を散策するのが最適でしょう。

平均霧氷日数…12月：10日、1月：15日、2月：18日

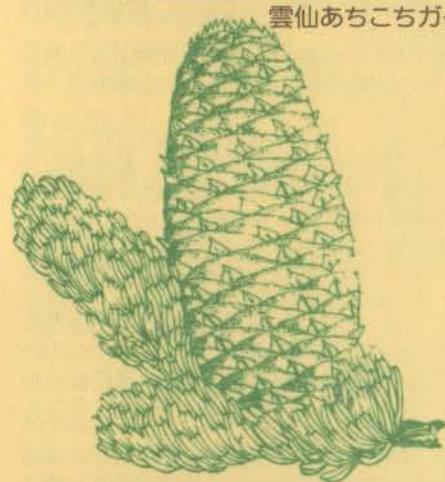


霧氷情報問合わせ先

雲仙ロープウェイ
TEL 0957-73-3572
(社)雲仙観光協会
TEL 0957-73-3434

普賢岳・妙見岳・国見岳の 自然ガイド

雲仙あちこちガイドシリーズ③



●モミの実

国立公園特別保護地区

普賢岳・妙見岳・国見岳一帯は、典型的な火山地形を呈し、動物や植物などの自然も豊かに保持されていることから雲仙天草国立公園の核心部として特別保護地区に指定されています。

特別保護地区内では、その素晴らしい自然・景観をそのままの姿で永遠に維持するため、次の行為は厳重に禁じられています。

1. 全ての木の伐採・掘取り
2. 全ての植物（花・葉・実・落葉・落枝等を含む）の採取
3. 全ての動物（鳥・昆虫・これらの卵等を含む）の捕獲
4. 全ての土・石・岩等の採取
5. たき火・火入れ（キャンプは禁止です。）

●問合わせ先：環境省雲仙天草国立公園雲仙自然保護官事務所
☎0957-73-2423

普賢岳・妙見岳・国見岳の 登山ガイド

雲仙あちこちガイドシリーズ③



●オオルリ↑

利用上の注意

■登山道踏み出し厳禁

登山道を外れると、植生を傷つけ、岩の隙間に落ちたりと、大変危険です。絶対に外れないようにしましょう。

■お山雲仙との3つの約束

「取るまい、折るまい、捨てるまい」

このエリアには貴重な植生や動物が多数生息しています。国民の宝として、みんなで、大切にしましょう。

緊急時について

■レスキュー番号

道標や解説版等に記されている①～④は、レスキュー番号です。遭難、救助要請の際は、地名の地、レスキュー番号を伝えていただくこと、場所が特定できます。

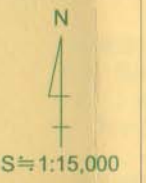
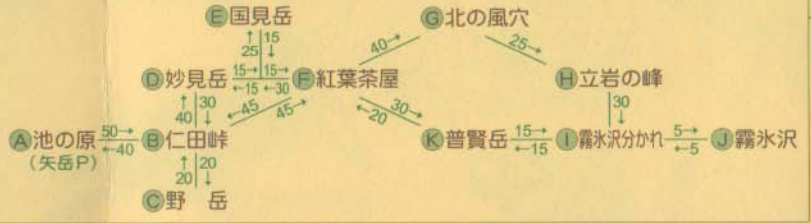
監修・発行 / 雲仙お山の情報館運営協議会

〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320 ☎(0957) 73-3636
http://www.dango.ne.jp/unzenvc/ FAX (0957) 73-2136

普賢岳・妙見岳・国見岳登山案内図



コースタイム



普賢岳・妙見岳・国見岳登山のみどころ

- ① 池の原 (733m)**
 温泉街より徒歩で約30分のところにあり、国の天然記念物にも指定されている「池の原ヤマキリシマ群落」が美しいことで知られています。
- ② 仁田峠 (1,070m)** (温泉街より車で約20分、徒歩で約70分)
 温泉街より東方へ約7km。妙見岳と野岳の鞍部にあたり、春はヤマキリシマの探勝、秋は普賢岳一帯の紅葉、冬は霧氷の見どころとして絶好の展望地です。

*平成3年の大噴火により現在は埋没しています。

普賢岳・妙見岳・国見岳の植物

普賢岳・妙見岳では森林がとても良く保護されていますが、この周辺の植生は赤松谷付近のモミ林、岩場の上部のヤマグルマ群落、そしてその他の部分を広くおおっている落葉広帯樹林（夏緑林）の3つに大別されます。この地域の森林は低木や下草の種類も多く、春の新緑から秋の紅葉までの間、絶え間なく美しい花や実を見せています。

ミヤマキリシマ

雲仙を代表するツツジ。仁田峠には10万本の大群落があり、見頃は5月20日から6月頃です。花も葉も小形で赤紫、朱紅、淡紅などさまざまな色の花をたくさん咲かせます。



サイコクミツバツツジ

幹から車輪状に多くの枝を出し、枝の先に葉を3つずつ付ける高さ2、3m程のツツジです。5月、葉が開くのと同時またはやや早く、淡紫色の花を咲かせます。



ヤクシマホツツジ

高さ2m位の落葉低木です。雲仙のツツジ類では最も遅く、7月末から8月初めにかけて淡紅色を帯びた白い小花を穂状にたくさん咲かせます。それぞれの小花も繊細な形をしています。



モミ（表紙参照）

太い横枝を水平に張り出す常緑の針葉樹で、大木になると高さ25m、直径1m近くに達します。仁田峠・あざみ谷間でよく見られますが、5月の開花期にはモミの雄花の花粉で登山道が黄緑色に染まります。



エイザンスミレ

葉の深い切込みが特徴的なスミレです。4月中旬～5月上旬、淡紅色の花を咲かせますが、花後の葉は大きく、切込みも単純です。あざみ谷付近の明るい林内で比較的良好に見られます。

ニシキウツギ

雲仙ではよく見られる高さ3m前後の落葉低木です。初夏、やや長いラッパ状の花を葉の付け根に数個ずつ咲かせます。種名は花の色が初め白く、後に紅変することから付けられました。



ヤマアジサイ

高さ1m程のアジサイで夏に普賢岳に登るとほぼ確実に濃い青紫色の花を見ることができます。希に淡紅色の花も見られますが、これは土壌の酸性度などにより花色が変化したものです。



ウンセントリカブト

9月初め頃、青紫色のえぼし状の花を咲かせる高さ1m程の多年草で、葉には著しい切込みが見られます。トリカブトの仲間には根に猛毒のアルカロイドを含んでいます。

オオルリ（裏面表紙参照）

スズメよりやや大型の夏鳥です。雄は背面が青紫色で胸が黒色、腹が白色ですが、雌は全体的に褐色をしています。高い梢に止まり、ピーコーピーコーキョキョなどと明るい声で比較的ゆっくり鳴き続けます。

普賢岳・妙見岳・国見岳の野鳥

落葉広葉樹林におおわれた普賢岳一帯は、自然が良く保護されているため多くの野鳥が見られ、バードウォッチングに最適です。特に夏季にはヤマガラ、シジュウカラなどの留鳥のほかオオルリ、センダイムシクイなどの森林性の夏鳥が極めて高密度に生息しています。

ミソサザイ

全体的にこげ茶色をしており、スズメよりはるかに小型です。普賢岳周辺の岩場にコケ類で巣を作り繁殖し、張りのある大きな声で長くさえずります。



センダイムシクイ

スズメより小型の夏鳥で上面は緑褐色、下面は灰白色をしており、黄白色の細い眉斑が目立ちます。さえずりは「焼酎一杯グイーツ！」と聞こえます。



ツツドリ

カッコウの仲間ではハト位の大きさの夏鳥。ポポポポと竹筒を叩くような声で鳴きます。センダイムシクイやミソサザイなどに託卵します。



ヤブサメ

ウグイスの仲間では全長10cmの日本の鳥の中でも最も小型級の鳥。尾羽が短かく、はっきりした白い眉斑がありません。ヤブの中でシーシーシーと虫のような声で鳴きます。



クロツグミ

ムクドリよりやや小型の黒い鳥でくちばしと目の回りの黄色がよく目立つ。他の鳥がほとんどさえずらなくなった7月には、この鳥の明るいさえずりだけがよく聞こえます。



アオゲラ

ハトより小型の灰緑色のキツツキ。雄は頭頂と後頭、雌は後頭だけが赤色。春キツツキの仲間には珍しく、ピョーツピョーツとさえずります。



キビタキ

スズメよりやや小型の夏鳥で、喉から胸にかけて鮮やかなオレンジ色、背面が黒の美しい鳥。声も美しくボービッピルルなど複雑な歌をうたいます。

火山・雲仙岳

雲仙岳は、遠望するとひとつの山のように見えますが、実際は普賢岳、妙見岳の他、九千部岳、絹笠山などの火山が集まってできた集成火山の総称です。

これらの火山のうち最も古いのが絹笠山などの高岳火丘群、次いで九千部岳火丘群、そして最後に出現したのが普賢岳火丘群です。普賢岳付近では、まず現在の普賢岳基底部で噴火が始まり、古普賢岳が形成されましたが、その後、古普賢岳の山頂部が破壊され、現在の妙見岳・国見岳を外輪山とする妙見カルデラが形成されました。

更に、このカルデラ南東部を破壊するように溶岩円頂丘が成長し、現在の普賢岳の姿が完成しました。

普賢岳はその後も噴火を起こしており、有史後3回目の噴火を記録しました。

1663年(寛文3年)の噴火・・・龍の馬場から噴火がはじまり、その後鳩穴から溶岩流(古焼溶岩流)が1km余り流れ出しました。

1792年(寛政4年)の噴火・・・地獄跡火口から噴火がはじまり、後に普賢岳北東部の琵琶の首、蜂の窪などから2.5km程溶岩流(新焼溶岩流)が流れ出しました。また、この時は島原の眉山が大崩壊を起こしています。

1990年(平成2年)の噴火・・・11月17日、九十九島・地獄跡両旧火口から、白い噴煙・水蒸気を上げて噴火が始まりました。当初は火山灰も少なく溶岩ドームも形成されませんでした。1991年2月(平成3年)の屏風岩新火口ができてから、火山活動も活発化し、3つの火口からの大量の降灰が深江・島原方面へもたらされるようになりました。また、土石流も発生し、水無川に沿って海岸にまで達しました。

1991年5月20日(平成3年)地獄跡火口に最初の溶岩ドームが出現し、その後溶岩ドームは成長と崩落を繰り返し火砕流が頻発するようになりました。6月3日には、成長した溶岩ドームの地滑り的崩壊によって、最大規模の火砕流が発生し、犠牲者を出す大惨事となりました。

その後、溶岩ドームは、第13ドームまで出現しましたが、1995年3月(平成7年)には、噴火活動も停止し、5月には「終息宣言」が出されました。

龍の馬場(九十九島火口)・普賢池・鳩穴・普賢神社は溶岩ドーム(平成新山)に埋没しました。

◎野岳(1,142m)

緩やかな登山道で、周辺には国の天然記念物に指定されている「野岳イヌツゲ群落」が見られます。妙見岳・普賢岳・平成新山の景観が見事です。また、橋湾(千々石湾)・有明海・雲仙温泉街等雄大なパノラマが眺望できます。

◎妙見岳(1,333m)

仁田峠からロープウェイを利用して約3分程で到着でき、山頂部からは雲仙温泉街、ゴルフ場などが眼下に見渡せ、北東に平成新山、普賢岳、北に国見岳がそびえています。なお、山の東側は切り立ったカルデラ壁となっています。

◎国見岳(1,347m)

ドーム状の山頂部は風の影響で高い木が無く、たけの低い小さな低木林や草原となっています。九千部岳、橋湾(千々石湾)の眺望が素晴らしいことに加え、普賢岳や平成新山、鬼人谷の美しい自然景観を望めます。

◎紅葉茶屋(1,180m)

文字どおり、一帯は紅葉が美しく、特に鬼人谷の紅葉の眺めが素晴らしいことで知られています。

◎北の風穴(1,260m)

冷気が吹き出し、真夏でも肌寒く、昔は氷の貯蔵庫として使われていました。

◎霧氷沢(1,320m)

12月から3月まで、霧氷がもっともよく見られます。春にはヒカゲツツジの群落が楽しめます。

◎普賢岳(1,359m)

雲仙岳の主峰の一つで、平成新山をまじかで見ることができます。四季折々、山の姿を美しく変化させますが、秋の紅葉は特に見事です。

◎平成新山(1,483m)

普賢岳山頂から東方約500m~600m付近にあった「地獄跡火口」や「九十九島火口」から噴出した溶岩の造山活動によって成長した巨大な溶岩ドームです。1996年(平成8年)5月20日に「平成新山」と命名されました。

利用 ルール

- 「鳩穴分かれ→立岩の峰→霧氷沢分かれ」は、道がせまく悪路のため一方通行です。また、同区間の平成新山側は、立入が禁止されている警戒区域()です。それ以外の場合も、登山道はずれると、植生を傷つけ岩のすき間に落ちたりしますので、登山道はずれないようにしましょう。
- は、雲仙天草国立公園の特別保護地区です。植物、動物、昆虫、土石等の採取・捕獲・損傷することのないよう気をつけましょう。

* 紅葉 *

普賢岳や妙見岳の山腹は、10月中旬頃から鮮やかに紅葉し始めます。見頃は11月初めまでで、その後、紅葉は徐々に下へ移って行きます。この地域の紅葉は南西日本の代表的なものとして国の天然記念物（「普賢岳紅葉樹林」）に指定され、紅葉植物は120種を数えます。

美しい紅葉が見られる条件としては、昼夜の温度差が大きいこと、葉が風雨で傷んでいないこと、紫外線を十分受けることなのですが、紅葉の色は紅・黄さまざまです。同じ樹でも枝の位置や時期によって異なります。



コミネカエデ



コハウチワカエデ



ウリカエデ



ウリハダカエデ

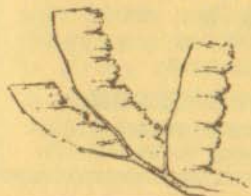
* 霧氷 *

普賢岳・妙見岳一帯では冬、霧氷を見ることが出来ます。1、2月を中心に11月下旬から3月中旬までが霧氷の時期ですが、この間毎日見られるものではなく、低気圧や寒冷前線が通過後冬型の天気となり、気温が0℃～-10℃位という気象条件の日に限られます。

霧氷は、山にかかった雲や霧の過冷却の霧粒が風で木の枝にぶつかり、凍り付くものなので枝の風上側（主に北西側）に刃のように成長します。さらにこの霧氷に陽の光が当たると一面にキラキラと輝き夢のような景観が広がります。

霧氷を手軽に楽しむにはロープウェイで妙見岳に登り国見岳への自然歩道を散策するのが最適でしょう。

平均霧氷日数…12月：10日、1月：15日、2月：18日



霧氷情報問い合わせ先

雲仙ロープウェイ

TEL 0957-73-3572

(社)雲仙観光協会

TEL 0957-73-3434